

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	事業発達支援放課後等デイサービスみらいく			
○保護者評価実施期間	2025年10月21日 ~ 2025年10月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数)	28
○従業者評価実施期間	2025年10月21日 ~ 2025年10月30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月20日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人一人のお子さま、親御さんの立場や考え方などを、しっかりと聞き取り、理解したうえで、最善の療育内容を考えて、毎日の療育を行っている。	一人一人の子どもの様子や行動、言動などを、詳細に確認し、親御さんの意見もお聞きしながら、親御さんと一緒にその子にとって最善の療育は何か?という問いかけを、しながら、専門的支援を取り入れできないことを出来るように支援している。	職員会議を今まで以上に実施し、子供の様子について、職員間で情報共有することによって、どの職員が担当になっても、最善の療育ができるよう、職員間のコミュニケーションを充実させる。
2	市販している、療育に関する道具を使うのではなく、手作りの療育グッズを使ったり、おやつ作りをすることで、温かみのある療育ができるだけでなく、SDGsに関しての知識も身に着けることができる。	家にある材料を使って、いろんなものを作成することで、リサイクルに関する意識を身に付けるようにしている。おやつ作りなどを定期的に実施することで、食に関する療育も実施できている。	県や市などが主催する発表会などに、皆で協力して作成した作品を提出することによって、チームとしての一体感を体験してもらえるようにしたい。
3	季節に合わせて、様々なイベントを行うことにより、季節感を感じ取ってもらうだけでなく、自分で考えてモノを作ることによる、創造性の向上を図る。	正月、子供の日、お盆、ハロウィーン、クリスマス会などの季節合わせたイベントや、皆で協力して制作を行うことで、季節に合わせた療育を実施している。	子どもだけのイベントにするのではなく、親御さんも招待してのイベントを実施するなどして、ご家族のコミュニケーションアップも図っていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者の人数が増えてきて、お友達とのコミュニケーションが出来るようになつた。コミュニケーションが取れるようになつたことにより、上手に伝えれないという問題も出てきている。	プランチャイズではないため、認知度が低く、集客に苦戦した。	良い施設であることを周知するため、SNSなどを活用して、情報発信を行っていく。
2	定員10名確保できているので、問い合わせがあるが空き待ちになっている。送迎も車の台数が限られている為、ご希望曜日に案内が出来ていない。	プランチャイズではないため、認知度が低く、集客に苦戦した。	良い施設であることを周知するため、SNSなどを活用して、情報発信を行っていく。
3	外部機関との地域交流などに参加する機会が少ない。情報を収集しないと情報が取得出来ていない。	職員と話し合いながら施設の強みを考えている。	スタッフの療育スキルを向上させ、できた時間で外部との交流を図るなどしていきたい。